

# I 平成 27 年度事業報告

公益財団法人いばらき文化振興財団の設立趣意に則り、県民のニーズを反映し、魅力ある文化振興事業を行い、個性豊かな地域文化の創造を図るため次の事業を行った。

## 総括的事項

公益財団法人としての経営 3 年目として「中期経営計画」に沿った運営に努めた。

- (1) 文化芸術に接する機会の提供については、クラシック音楽をはじめ、伝統芸能、舞踊等 36 事業を行い個性豊かな県民文化の振興に努めた。
- (2) 文化芸術に関する活動への助成については、自主的で個性的な文化活動団体等 49 件に対し財政的な支援を行い、地域における文化芸術の振興に努めた。
- (3) 茨城県立県民文化センターの運営については、指定管理者として施設利用の促進をはじめ、利用者サービスの向上と施設の適正管理に努めた結果、施設全体の利用率は 80.2%(前年度 82.1%)の高水準を維持するとともに、入場者についても開館以来 5 番目となる 634,242 人(前年度 635,752 人)の利用があった。なお、平成 27 年度末をもって指定管理期間が満了となるため、引き続き指定管理者として運営にあたるため申請手続きを行い、平成 32 年度まで 5 年間の指定を受けることとなった。
- (4) アクアワールド茨城県大洗水族館については、夏季のサメ騒動により海水浴場の遊泳が禁止されたことや 9 月の関東・東北豪雨による災害などにより入場者減が懸念されたが、マスコミへの積極的な情報発信、展示の充実及び入場者のサービス向上に努めた結果、9 月の大型連休(シルバーウィーク)を契機に盛り返すことができ、昨年度を上回る 1,160,719 人(前年度 1,147,534 人)の入場者を迎え、水族館が本来持っている「展示」「普及」「研究」の 3 つの機能を相互に連動させ、魅力ある海の総合ミュージアムとして効果的かつ円滑な展示を実施した。

## 1 法人運営事業

県から指定管理を受けた茨城県立県民文化センターの管理運営及び財団自ら運営するアクアワールド茨城県大洗水族館並びに便利施設としてのレストラン・売店・駐車場等の自主事業について、県及び各事業所と緊密な連携を図り、業務遂行の進行管理及び事業の推進に当たるとともに次の事業を実施した。

なお、平成 26 年度事業に係る茨城県監査委員による監査については、適正に処理されたものと認められ、また、県出資団体経営評価においても、平成 26 年度の事業について「概ね良好」の評価を得た。

### ア 理事会、評議員会の開催

平成 26 年度事業報告及び収支決算、平成 27 年度収支補正予算、平成 28 年度事業計画及び収支予算等について審議するため、理事会、評議員会を開催した。

項目	開催日時	議案
監事監査	平成 27 年 5 月 14 日	平成 26 年度事業報告及び収支決算等

平成 27 年度第 1 回理事会 (出席 10/12)	平成 27 年 5 月 19 日	第 1 号議案：平成 26 年度事業報告及び決算について 第 2 号議案：平成 27 年度収支補正予算について 第 3 号議案：平成 27 年度定時評議員会の開催について
平成 27 年度定時評議員会 (出席 10/12)	平成 27 年 6 月 2 日	第 1 号議案：評議員の選任について 第 2 号議案：理事の改選について 第 3 号議案：平成 26 年度事業報告及び決算について
平成 27 年度第 2 回理事会 (書面理事会)	平成 27 年 6 月 2 日	提案事項 1：理事長 1 名選定の件 提案事項 2：専務理事 1 名選定の件
監事監査	平成 27 年 11 月 26 日	平成 27 年度上半期事業報告及び収支決算等
平成 27 年度第 3 回理事会 (出席 12/12)	平成 27 年 12 月 15 日	議案：平成 28 年度自主公演事業計画「県民文化センター開館 50 周年事業」(案)について
平成 27 年度第 4 回理事会 (出席 8/12)	平成 28 年 3 月 24 日	第 1 号議案：平成 27 年度収支補正予算について 第 2 号議案：平成 28 年度事業計画及び収支予算について 第 3 号議案：アクアワールド茨城県大洗水族館管理規程の一部改正について

## イ 運営指導の実施

事務事業の効率化と合理化を図るため、次の項目について運営指導を行った。

- (ア) 各事業所の懸案事項等の調査検討と対応策の推進
- (イ) 各事業所の事業推進指導及び進行管理
- (ウ) 上半期決算ヒアリングの実施による上半期の実績検証及び下半期に向けた対策の検討
- (エ) 会計経理等に関する各事業所への実務指導

## ウ 職員研修の実施

職員の資質向上及び職務能率増進のため、次の研修を実施した。

(研修実績)

区 分	研修名	人数	備 考
財団主催研修	新採研修	2	新規採用職員
公社等連絡協議会主催	一般研修	6	第 1 部から第 5 部課程研修
	特別研修	6	応接研修, 会計研修, ライフプランセミナー
危機管理研修		15	普通救命講習会
各種セミナー研修		214	公益法人研修, ビジネスセミナー研修, 社会保険委員研修, 公文協研修, 通信研修等
計		243	

## 2 公益目的事業 1

### (1) 文化振興事業

ア 自主公演事業 (主催公演 16 事業, 共催公演 15 事業, 計 31 事業)

#### (ア) 普及事業 (8 事業)

第 41 回茨城県新人演奏会を開催し、茨城県の有望な若手演奏家に対して演奏機会を提供した。また、県北生涯学習センターなど 4 会場で「公共スペースコン

サート」を開催し、生の洗練された演奏を身近に鑑賞できる機会を提供し音楽文化の普及に努めた。

そのほか、鹿行生涯学習センターを会場とし、子どもから大人まで幅広い年齢層を対象に「はじめてのオペラ鑑賞会」を開催し、接する機会の少ないオペラ鑑賞を提供したのと合わせて、劇中に地元の中学生在が合唱でプロの声楽家と共演できる機会を提供し、芸術文化への興味・関心を促すことができた。さらに、歌舞伎やオペラ公演では、講師を招き事前に演目・曲目等に関する講座を開催し、より身近に感じてもらうとともに、公演に対する理解を深めてもらいリピーターの確保に努めた。

(イ) 参加創造事業 (2 事業)

登録アーティスト（茨城県新人演奏会出演者等）を活用し、プログラム内容を独自に企画制作した演奏会「プロムナードコンサート」を開催し、若手演奏家の発表機会の提供と育成に努めた。

(ウ) 鑑賞事業 (21 事業)

スロヴァキア室内オーケストラ&錦織健をはじめ宝塚歌劇や松竹大歌舞伎などを開催し、国内外の優れた舞台芸術に接する機会を提供した。

また、民間プロモーターとの連携により「立川談春独演会」や「葉加瀬太郎コンサート」等、県民の要望に応える多種多様なジャンルの共催公演を行い、文化芸術の振興に努めた。

(公演実績)

区分	ジャンル等	実施日	公演名	会場	回数	入場者数 (単位:人)	
主 催 公 演	講座	7月26日(日)	歌舞伎をより楽しむ会	県文小ホール	1	264	
		10月14日(水)	オペラをより楽しむ会	県文小ホール	1	436	
	普及事業	舞台芸術鑑賞	1月31日(日)	はじめてのオペラ鑑賞	茨城県生涯学習センター	1	300
	新進演奏家育成	9月13日(日)	第41回茨城県新人演奏会	県文大ホール	1	660	
	アウトリーチ	9月12日(土)	公共スペースコンサート	茨城県近代美術館	1	239	
		12月20日(日)		真壁伝承館	1	290	
		1月24日(日)		ゆうゆう十玉・Jホール	1	480	
		1月30日(土)		しもだて美術館	1	120	
	参加創造	新進演奏家育成	12月23日(水)	プロムナードコンサートVol.11 「クリスマスコンサート」	県文小ホール	1	285
			2月13日(土)	プロムナードコンサートVol.12 「バレンタインコンサート」	県文小ホール	1	230
	鑑賞事業	ミュージカル	6月17日(水)	宝塚歌劇星組全国ツアー公演 「大海賊」「Amourそれは…」	ひたちなか市文化会館	2	2,628
			7月5日(日)	きかんしゃトーマス・ファミリーミュージカル	県文大ホール	2	2,158
		歌舞伎	7月26日(日)	松竹大歌舞伎「中村翫雀改め四代目中村鴈治郎襲名披露」	県文大ホール	2	1,294
		器楽	11月13日(金)	大野雄二&ルパンティック・ファイブ	県文大ホール	1	915
演劇		12月19日(土)	劇団鳥獣戯画「三人でシェイクスピア」	県文小ホール	1	366	
オーケストラ	1月15日(金)	スロヴァキア室内オーケストラ&錦織健	県文大ホール	1	490		

共 催 公 演	鑑 賞 事 業	器楽室内楽等	6月20日(土)	GAME SYMPHONY JAPAN	県文大ホール	1	1,082
			12月2日(水)	葉加瀬太郎コンサート	県文大ホール	1	1,470
			12月12日(土)	聖夜のトランペット	県文小ホール	1	340
	ニューミュージック ・歌等		4月25日(土)	加山雄三コンサート	県文大ホール	1	1,387
			7月4日(土)	美輪明宏コンサート	県文大ホール	1	1,367
			10月10日(土)	南こうせつ・伊勢正三コンサート	県文大ホール	1	1,484
			10月11日(日)	郷ひろみコンサート	県文大ホール	1	1,466
			3月4日(金)	井上陽水コンサート	県文大ホール	1	1,472
	演劇・舞踊等		3月12日(土)	財津和夫コンサート	県文大ホール	1	1,444
			6月7日(日)	舞劇「朱鷺」	県文大ホール	2	2,730
			12月3日(土)	タンゴ・ロマンス	県文小ホール	1	285
	落語・漫才漫談		3月20日(日)	中国雑技団「輝け!パンダマスター」	県文大ホール	1	1,297
			4月8日(水)	立川談春 独演会	県文小ホール	1	460
			2月26日(金)	立川談春 独演会	県文小ホール	1	460
			3月5日(日)	よしもとお笑いまつり in水戸 2016春	県文大ホール	1	1,507
計 31事業(主催16事業, 共催15事業)							29,406

#### イ 受託公演事業「いばらき文化芸術創造・発信事業」(5事業)

全国高等学校総合文化祭の管楽器部門等に参加する選抜メンバーを対象に、水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスンを水戸芸術館で実施した。公開レッスンにおいては、生徒達に第一線で活躍するプロの演奏家から直接指導が受けられる貴重な機会を提供し、演奏技術の向上を図ることができた。

また、茨城県新人演奏会出身の若手演奏家とプロオーケストラの共演によるクラシックコンサートを結城市と常陸大宮市の2会場において入場無料で開催し、本県出身の演奏家の育成と次世代の文化の担い手である子どもたちに良質な音楽を提供することができた。

さらに、プラハ国立歌劇場によるオペラ「椿姫」を本県出身のオペラ歌手「中丸三千繪」をソリストに迎え上演し、海外の優れた舞台芸術を低料金で提供し、本県の文化芸術の振興に寄与した。

その他、アウトリーチ事業として茨城県新人演奏会出身者と県内で活躍している演奏家などで構成されている登録アーティストを学校に派遣する音楽出前講座(35校)を開催し、児童生徒や地域住民に音楽に接する機会を提供し普及に努めた。

#### (公演実績)

区分	ジャンル等	実施日	公 演 名	会 場	回数	入場者数 (単位:人)
発 信 事 業 創 造	新進演奏家 養成	5月16日(土)	高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる 公開レッスン&ミニコンサート	水戸芸術館	1	536
		2月28日(日)	高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる 公開レッスン&ミニコンサート	水戸芸術館	1	424
	オーケストラ	9月5日(土)	みんなで楽しむオーケストラ 管弦楽:東京室内管弦楽団	結城市民文化センター	1	1,056
		9月6日(日)	指揮:菅野宏一郎	常陸大宮市文化センター	1	704

発信 信芸 事術 業創 業創 造文	オペラ	10月14日(水)	プラハ国立歌劇場「椿姫」ソリスト：中丸三千繪	県文大ホール	1	1,226
	器楽	3月19日(土)	かさま国際音楽アカデミー水戸特別公演 ザハール・ブロン&川久保賜紀ヴァイオリン・デュオコンサート	県文大ホール	1	1,158
	アウトリーチ	5月21日(木)~ 3月1日(火)	音楽出前講座	県内小中学校 35校	45	8,884
計 5事業						13,988

#### ウ 財団振興積立金事業

県民文化センター及び大洗水族館事業を広く県民に周知するため、新聞に合同で広告を掲載しPRを図った。

媒体	掲載数	内 容
茨城新聞 (全3段モノクロ)	51回 (毎週金曜日掲載)	3事業所の公演・イベント情報の広告掲載

#### エ 文化芸術活動への助成

県内各地で行われている自主的で個性的な文化活動を行う団体等に対して助成を行うことにより、県民の文化活動への参加を促進し、地域における文化芸術の振興に努めた。

(助成実績)

申請件数	交付決定件数	助成件数	助成額(円)
60	50	49	18,438,000

(助成団体から取下げ1件)

#### オ 公立文化施設協議会の運営及び地元演奏家への支援事業

県内の公立文化施設で構成する茨城県公立文化施設協議会の会長館として、総会、研修会等を開催したほか、加盟各館と連絡調整及び情報支援を行った。また、地元音楽家や文化団体の育成・支援を行った。

- ・茨城県公立文化施設協議会

会員館 34館

事業内容 総会ほか各研修会など年4回開催

- ・地元音楽家や文化団体等

音楽団体 6件

美術団体 4件

舞台芸術団体 2件

県内公共施設自主事業へのマネージメント支援 4件

#### (2) 県民文化センター管理運営事業

県民の文化活動の拠点施設として利用者のニーズに対応しながら安全・安心で快適に施設が利用できるよう管理運営にあたった。

本年度は、利用者数が予想を大幅に上回った小中学校美術展覧会をはじめ、年間を通して好調であったことにより、昭和41年開館以来5番目となる634,242人の利用者数を記録し、利用料金収入においても過去4番目となる108,270千円となった。

なお、開館から50年が経過し施設の老朽化が目立ってきていることから、施設の不具合解消並びに環境整備等を目的とした計69件の計画修繕を実施し、施設の長寿命化を図るとともに利用者が安全・安心で快適に施設を利用できるよう努めた。

ア 施設の利用促進及びサービスの向上

[施設利用状況]

( ) は前年度実績

区分	利用日数(日)	回数(回)	利用者数(人)	利用率
大ホール	262( 271)	641( 671)	255,725( 255,230)	88.2(88.0)
小ホール	284( 265)	626( 593)	88,214( 79,307)	85.8(87.7)
本館集会室	342( 338)	3,639(3,688)	115,957( 119,222)	97.2(97.7)
分館集会室	318( 322)	1,799(1,978)	39,434( 48,096)	94.4(92.3)
和室(本館)	181( 201)	381( 410)	4,288( 3,934)	52.5(57.9)
一般展示室	283( 293)	781( 802)	68,575( 69,739)	81.1(84.0)
県民ギャラリー	217( 234)	215( 234)	62,049( 60,224)	62.4(67.0)
計	1,887(1,924)	8,082(8,376)	634,242(635,752)	80.2(82.1)

\* 利用率は、利用可能日に対する利用日数の割合。

・ 施設利用料徴収状況

- ・ 施設利用料収入額 108,270,083円 (前年度 115,295,898円)
- (内訳) 施設使用料 72,716,343円 (前年度 76,792,218円)
- 付属施設使用料 35,553,740円 (前年度 38,503,680円)

・ 指定管理料収入額 184,870,000円

・ 施設整備及び休館の状況

大ホール奈落庫設置工事(平成28年1月22日～平成28年2月5日(大ホール休館))

(ア) 割引制度の導入

閑散期の利用促進を図るため、1月限定で大ホール、小ホール、展示室及び県民ギャラリーの施設利用料50%割引を実施した。

ホームページを中心に周知に努めた結果、目標数値を達成した。

[平成27年度割引制度結果]

区分	人数(人)	利用率(%)
27年度計画	19,349	57.4
27年度実績	20,210	60.4
増 減	861	3.0

(イ) 新規利用団体への誘客及びリピーターの確保

- ・ 毎月、催し物ご案内を掲載したリーフレットを12,000部作成し、水戸市内をはじめ約700団体へ配布し利用促進に努めた。
- ・ ホームページを週1回のペースで更新したほか、催事や施設空き情報等の最新情報を随時掲載し情報提供に努めた。
- ・ 県内企業等訪問や県外企業へのダイレクトメールによるPRを行い、新規利用団体及びリピーターの確保に努めた。
- ・ 水戸市観光協会、茨城県公立文化施設協議会等関係各団体と連携し情報交換及び情報収集に努め誘客促進を図った。

(ウ) サービスの向上

- ・ 会場受付及び公演チケット販売時間を午後7時まで延長したことや、会場申込書式及び施設図面をホームページからダウンロードできるよう整備したことにより、利用者の利便性を高めた。
- ・ 満足度調査（アンケート調査）を毎月実施し、利用者の要望等を分析し、緊急性の高い危険箇所は速やかに修繕を行うなど不具合の解消に努めた。
- ・ 厳冬期の寒さ対策としてジェットヒーターを設置し快適に利用出来るよう努めた。

(エ) イルミネーション事業

自主事業「ルパンジャズライブ」のメンバーによるファンファーレ演奏にあわせて点灯式を行い43日間実施した。空間にメディアを装飾するなど新たな試みを行ったほか、LED電球数を前年度より4,000球増やすなど、規模を拡大して実施した。

積極的なPRを展開し、各マスコミの他、個人のホームページやブログ等に多数取り上げられたこともあり、週末には1日あたり最高2,000人を超える見学者が訪れた。

- ・ 実施期間：平成27年11月13日（金）～平成27年12月25日（金）（43日間）
- ・ 点灯時間：午後5時～午後10時まで
- ・ タイトル：第15回茨城県立県民文化センターイルミネーション  
～ひかりのハーモニー2015～
- ・ 見学者数 延べ41,527人（前年度52日35,731人）
- ・ 仕様：LED電球約74,000球、クリスマス装飾、中庭空間への装飾

(オ) ワンコインコンサート事業

入場料金を低価格（500円）に設定し、気軽かつ身近にクラシック音楽を楽しんで頂くことを目的にグリルにおいて計6回開催した。

また、演奏を県内出身の若手演奏家に依頼したことで、発表及び演奏経験の場を提供し、親しみやすい演奏会となった。

（開催実績）

開催回	開催日	入場者数	出演者等
第4回	4月3日（金）	53人	牛草 春（ヴァイオリン）他3名
第5回	7月25日（土）	51人	大江 雅子（マリンバ）他2名
第6回	8月23日（日）	52人	城戸 春子（チェロ） 西垣 林太郎（ギター）
第7回	11月21日（土）	60人	田村 由里（フルート） 福井 かやの（ハープ）
第8回	12月25日（金）	47人	宇佐美 悠里（ソプラノ） 伊藤 真理（ピアノ）
第9回	3月26日（土）	52人	永田 絵里子（ピアノ）

(カ) スタインウェイ体感事業

県民文化センターが管理するスタインウェイ社製のフルコンサートピアノについて、有効利用を図るとともに、管理上も良好な状態を保つ観点から、大ホール未使用日を利用して演奏希望者に対し無料で演奏機会を提供する「スタインウェイを体感しよう」事業を開始した。本年度は全7回で全て定数以上の申込みがあった。

(キ) 県民文化センター友の会の運営

県民文化センター友の会の運営を通して催事への利用促進を図り、公演チケットの売上げ増等に努めた。

- ・会員数 2,108人（平成28年3月31日現在）
- ・友の会だより発行部数 年間30,000部
- ・主な実施事業  
旅行会（年1回）、観劇会（年2回）、総会及びアトラクション等の主催、  
チケット割引等各種会員向けサービスの実施

イ 安全・安心で快適な施設づくり

開館から50年が経過し施設の老朽化が進む中、利用者の安全確保を最優先に、施設劣化の抑制に繋がる計画的な修繕を進めることで、施設及び付属設備の長寿命化を図った。

(ア) 施設整備計画の策定と実行

施設の日常点検の徹底を基本に、施設の老朽化対策工事として、県直轄工事と指定管理料を使用した工事に区分し、施設の修繕計画を策定し実施した。なお、緊急性の高い修繕箇所については速やかに修繕を行い、利用者の安全確保に努めた。

(イ) 危機管理対策

- ・職員や委託業務従事職員等を対象として防災訓練を年2回実施した。うち1回は大規模地震の夜間発生を想定した訓練を実施し、いかなる状況下の災害発生にも対応できるよう、職員の危機管理対応の向上を図った。さらに、不審者対策訓練を新たに実施した。
- ・大ホールの催事のうち、特に利用者が多く混雑が見込まれる催事について、臨時に雑踏警備員を配置し安全確保を図った。

(ウ) 修繕工事及び備品整備

施設の老朽化に伴い、県との協議のうえ修繕に関する単年度計画及び中期計画を策定し、修繕工事を実施した。

また、平成28年度に文化センター開館50周年を迎えるにあたり、施設内の環境整備を目的とした修繕や備品の整備を実施した。

- ・指定管理部門修繕工事  
主な修繕工事（庇廊下タイル面防滑工事、分館女子トイレ改修工事、大ホール楽屋床面修繕ほか）

件数	金額
69件	26,500,434円



- ・ 県直轄工事  
大ホール屋上防水工事（工期 平成 27 年 11 月 3 日～平成 28 年 3 月 22 日）  
大ホール奈落ピアノ庫設置工事（工期 平成 27 年 11 月 19 日～平成 28 年 2 月 16 日）  
分館スロープ改修工事（工期 平成 27 年 11 月 19 日～平成 28 年 2 月 16 日）

件数	金額
3 件	39,420,000 円

- ・ 備品整備においては、プロジェクター、スポットエアコン、ジェットヒーター等を整備し、利用者の利便性の向上に努めた。

#### (エ) 環境への配慮

公の施設として環境に配慮し省エネルギーを推進したほか、偕楽園公園に隣接する施設として環境美化に努めた。

- ・ 園路樹木等管理は、適切な伐採と剪定を行うことで、枯れ枝等の落下事故等が発生しないよう細心の注意を払い実施した。
- ・ 花壇やプランターを整備するなど環境美化に努めるとともに、季節感の演出を図った。
- ・ ゴミの分別及びリサイクルに努めるとともに排出量の削減に努めた。

### 3 収益事業 1（県民文化センター自主事業）

#### (1) グリル・売店の運営

県民文化センター利用者への利便施設としての役割を踏まえ、利用者のニーズを把握し、収支バランスを考慮し健全な運営と利用者サービスに努めた。

また、営業日及び営業時間の見直しを行い効率的な運営に努めた。

##### ア メニューの改善

- ・ 季節に応じた新規メニューの開発を行ったほか、イルミネーション期間には月替わりでイルミネーションランチを販売した。  
(イルミネーションランチ：平成 27 年 11 月 13 日～平成 27 年 12 月 25 日)
- ・ 文化センターの開館記念日(4 月 11 日)にはワンコインカレー(500 円)を提供し話題づくりに努めた。
- ・ コストを意識したメニュー及び工夫を凝らした自家製弁当の開発に取り組み売上向上に努めたほか、各種パーティーメニューを考案し団体客の誘致に努めた。

##### イ サービスの提供

県民文化センター利用者が快適に食事ができるようサービスの提供に努めた。

- ・ 接客マナーを向上させるため接客研修会を実施した。
- ・ イルミネーション期間に合わせてホール内を装飾するなど、親しみのもてる空間作りを行った。
- ・ グリルを会場とするワンコインコンサートにおいてドリンク類や菓子類を販売し売り上げ増に努めた。
- ・ 駐車場(有料)利用者に対して、年間を通してコーヒー無料券を配布し利用促進とサービス提供に努めた。
- ・ 夜間の催し物に合わせて営業時間を延長し、サービスの提供及び売上増に努めた。

ウ 収支状況

(単位：円)

事 項	27 年度	26 年度	比較増減
飲食料収益	40,793,100	44,190,663	△3,397,563
売店収益	18,592,287	18,777,160	△184,873
諸収益	2,305,899	2,933,466	△627,567
収益計	61,691,286	65,901,289	△4,210,003
グリル事業費	67,189,872	69,488,547	△2,298,675
正味財産増減額	△5,498,586	△3,587,258	△1,911,328

エ 利用状況

事 項	27 年度	26 年度	比較増減
グリル利用者数	37,914	43,737	△5,823
売店利用者数	39,846	42,071	△2,225

(2) 駐車場の運営

茨城県から管理許可を受けた千波公園・県民文センター前駐車場を利用者が安全かつ円滑に利用できるよう管理運営に努めた。

ア 安全対策

- ・ 満車予定の催事開催日において、警備員を増員するとともに、臨時駐車場として水戸市消防学校跡地を借り上げることににより、利用者の安全確保及び混雑緩和を図った。

警備員増員実績

事 項	27 年度	26 年度	比較増減
日 数 (日)	178	183	△5
延べ時間数 (時間)	3,121.5	3,766	△644.5
延べ人数 (人)	786	833	△47
金 額 (円)	6,068,196	7,321,104	△1,252,908

臨時駐車場借り上げ実績〈主催者による借り上げは除く〉

事 項	27 年度	26 年度	比較増減
回 数 (回)	29	39	△10
金 額 (円)	1,131,000	1,551,360	△220,360

イ 計画的な施設整備

安全・安心を心がけた施設整備のために、県施行によるバリアフリー化工事（3期：5/7～7/14 4期：11/30～翌3/24）を実施した。本年度で全ての工事が終了し、駐車スペースが広がったことにより、お年寄りや車椅子の方でも利用しやすくなった。また、軽自動車専用スペースを設置したことにより駐車台数が410台から422台に増加し利便性が向上した。

ウ 収支状況

事 項	27 年度	26 年度	比較増減
駐車場利用料収益	28,624,990	30,072,910	△1,447,920
駐車場費	26,448,490	29,336,751	△2,888,261
正味財産増減額	2,176,500	736,159	1,440,341

エ 利用状況

区 分	27 年度	26 年度	比較増減
全額徴収	45,540	46,898	△1,358
1 / 4 免除	26,394	30,871	△4,477
1 / 2 免除	8,170	5,402	2,768
全額免除	65,500	61,416	4,084
合 計	145,604	144,587	1,017

4 公益目的事業2（水族館事業）

アクアワールド・大洗は、基本テーマである「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」に沿って、地域の自然と世界の水生生物の生態環境を通し、生物の多様性や自然環境・地球環境について、楽しみながら学ぶという教育と娯楽性を兼ね備えた施設として運営を行った。

このため、水族館が本来持っている「展示」「普及」「研究」の3つの機能を相互に連動させ、魅力ある海の総合ミュージアムとして効果的かつ円滑な展示と運営を行った。

さらに、埼玉県における大型集客施設や北関東自動車道沿線での各種キャンペーンの実施や新聞・テレビ等メディアへの情報発信を積極的に行い、27年度は「更なる飛躍の1年」として総入場者数115万人を目標に掲げ、さまざまな誘客活動を推進した。

上半期は夏の特別展開催や生物情報発信などで夏季入場者の確保に努め、年間を通して積極的な広報周知に努めた。特に9月の大型連休以降は毎月前年度を上回る入場者を確保し、その結果目標を突破し、総入場者数116万人を達成した。

(1) 入場者実績

入場者数

(単位：人)

区 分	有料入場者					無 料 入場者	総入場者
	大人	小中	幼児	合 計	前年度		
一般	436,114	60,576	48,791	545,481	523,954	133,819	1,160,719
団体等	258,115	88,162	61,075	407,352	418,775		
年間パスポート	8,427	1,400	2,955	12,782	12,434		
年パス2回目以降	40,283	5,161	15,841	61,285	58,389		
合 計	742,939	155,299	128,662	1,026,900	1,013,552		
前年度	727,481	158,732	127,339	1,013,552	—	133,982	1,147,534

無料入場者内訳

(単位：人)

区 分	3才未満	招待券	整理券	こどもの日	県民の日 (幼児)	合 計
27 年度	97,627	19,943	11,101	4,514	634	133,819
前年度	94,609	20,998	12,248	5,453	674	133,982
比較増減	3,018	△ 1,055	△ 1,147	△ 939	△ 40	△ 163

(2) 飼育展示事業・調査研究事業

ア 魚類展示

魚類飼育関連施設・設備の適切な管理運用のもとで、飼育生物の健康管理と安定した飼育環境作りに努めた。基本テーマに沿った生物の収集活動とともに生物展示の充実や新規生物の開拓により、広報誘客につながる情報発信を積極的に行い、話題性の提供に努め、季節毎のイベント・移動水族館等で生物展示を実施し誘客促進を図った。

また、茨城県水産試験場との事業連携協定に基づき、調査船に同乗して収集した生物や、調査船より寄贈を受けた生物を展示に反映させた。

(ア) 展示生物収集

各水槽の展示の充実を図るため、会瀬定置網や地元漁業者からの購入・寄贈、他園館との生物交換、自家採集等を実施した。

展示生物収集実績

<計 321 回／収集生物点数 461 種 81,883 点>

収集方法	回数	種類数	点数	主な生物
会瀬定置網から購入 (うち乗船 収集8回)	31	52	280	シロシュモクザメ・マンボウ・ キアンコウ・クロアナゴ他
活魚業者、漁業者から購入 (会瀬定置網を除く)	104	121	32,884	マイワシ・イモリザメ・スモール スポットテッドキャットシャ ーク他
漁業者等からの寄贈	80	75	8,363	キアンコウ・ミドリイシ幼生・ イシカワシラウオ・ハゼ類他
県調査船(あさなぎ、いば らき丸)からの寄贈	19	98	1,230	ミドリフサアンコウ・オオグソ クムシ・サケビクニン他
自家採集(涸沼、大洗マリ ーナ、網走等)	65	162	37,766	ゴンズイ・シラウオ・イサザア ミ・アマモ他
生物交換【搬入】(室蘭水 族館、なかがわ水遊園、加 茂水族館他、9園館)	22	51	1,360	スケトウダラ・オオカミウオ・ カクレクマノミ・クラゲ類他
生物交換【搬出】(室蘭水 族館、なかがわ水遊園、鴨 川シーワールド他、9園館)	17	24	1,196	タカアシガニ・ギンガメアジ・ サケ発眼卵・クラゲ類他

(イ) 生物展示の充実

- a 涸沼がラムサール条約湿地に登録されたことを記念し、下流・汽水水槽でニシン・ヤマトシジミやヒヌマイトトンボの標本等を用いて特別展示を行った。
- b 室蘭水族館との生物交換でスケトウダラ・ホッケ等を搬入し「四季の海」水槽を姉妹水族館PR水槽として展開した。
- c クラゲギャラリーに水槽を2槽増設、常時9槽で展示し、クラゲ類展示の拡充を図った。

- d 茨城県調査船いばらき丸で捕獲されたメンダコやフジツボの仲間のミョウガイなど深海性生物展示を、メディアやSNSに発信し誘客の一助とした。
- e 日本では2館のみで展示している希少なイモリザメは、3月31日現在で飼育日数が5,145日に達し、日本における飼育記録を更新中である。
- f 第23回企画展「プランクトン」、第24回企画展「つながるいのち」において生体展示や付帯事業を行った。それぞれ、オオミジンコ等13種500点、ディスカス等8種200点を展示した。
- g ポルトガルの定置網から直にサメ類を搬入し、大西洋産魚類の新たな入手経路を開拓した。

(ウ) 広報資料提供

- a ラムサール特別展示・メンダコ初展示・イモリザメ展示5,000日突破等で8本のマスコミリリースを行った。
- b 夏季の茨城県海水浴場におけるメジロザメ騒動で、計30件のマスコミからの取材対応をした。
- c 読売新聞に毎週連載の「いきもの日記」において、展示生物の紹介原稿を投稿し、年度内で計36件の記事掲載を行った。
- d ホームページの生物情報として、新着生物ニュースの更新ほか、スタッフブログ・フェイスブック・ツイッター等のSNS情報発信に努めた。

(エ) 生物の繁殖育成

- a サメ類の繁殖では、ポートジャクソンシャーク・シマネコザメ・アラビアンカーペットシャーク・イズハナトラザメなど14種266点の繁殖に成功し、サメ類以外の魚類では、ダンゴウオ・ポットベリーシーホースなど6種1,437点、クラゲ類ではギヤマンクラゲ・ヤワラクラゲ・サカサクラゲなど5種3,917点を繁殖させ、展示に供した。
- b 前年度国内で初めて繁殖に成功したホーンシャークが、日本動物園水族館協会から「繁殖賞」を受賞し、その育成個体を展示した。また、同様に繁殖育成研究に取り組んでいたポートジャクソンシャークの繁殖にも成功したため、繁殖賞の申請を行った。
- c 水槽内でメスのシロワニから排出された胎児が発見されたことで、国内で初めて飼育下でシロワニの受精を確認することができた。

(オ) 調査・研究

- a 茨城県に來遊するサメ類の調査研究では、標本としてシロシュモクザメ、ハナザメ等4種8点を収集し、各部計測後解剖、顎骨・胎仔・脊椎骨等の内部形態のデータを取った。
- b 茨城県沿岸におけるクラゲ類の季節的消長の調査研究では、目視採集調査を9回実施し、リュウセイクラゲ・カブトクラゲなど7種193点を収集し展示した。
- c 茨城県沖の深海生物の調査研究では、県水産試験場調査船(あさなぎ・いばらき丸)に乗船採集したほか、いばらき丸からの寄贈で、エドアブラザメ・ミドリフサアンコウ・オオグソクムシ・フトウミエラなど深海性の魚類や無脊椎生物98種1,230点を収集し一部を展示した。また、標本の一部は茨城県自然博物館の総合調査の資料とした。
- d 地元漁師が混獲したタイマイやアオウミガメ2種4個体の標識放流を行い、また、ストランディングしたアカウミガメ3個体を解剖しデータを収集した。
- e 茨城工業高等専門学校の「魚類の耳石に含まれる炭素酸素の安定同位体比から生活

環境の履歴を解析する」という研究で、当館が飼育するマイワシを提供した。

(カ) 研究発表

東京大学大気海洋研究所主催のシンポジウム「水族館と動物行動学」において、「卵生サメ類の水槽内での産卵行動について」の口頭発表を行った。

(キ) 展示解説等

水中対話ショー「アクアウォッチング」は、夏期特別展・クリスマスなどの館内イベント開催中に特別バージョンを実施したほか、サメ・マンボウ・出会いの海で飼育員による給餌解説を実施した。また、館内及びバックヤードの案内を希望する団体等に対して臨時解説を実施した。

(ク) ミュージアムパーク茨城県自然博物館水系展示水槽管理委託事業

県自然博物館の水系展示水槽の委託業務として、展示生物の入手及び水槽・水質の維持管理を行い、3月末現在、ニッコウイワナ・ウグイ・ワカサギ・ドチザメ等82種820点の生態展示を行った。館外においては、大洗マリーナでの潜水採集、流れ藻乗船採集等で調査収集を行い展示生物の充実を図った。

企画展「くらしの中の動物」と企画展「洞くつ探検」においては、特別展示の水生生物維持管理を行い、また、海の日やサイエンスデーでは、「バックヤードツアー」の事業に協力し実施した。

また、チラー交換などの大規模改修工事の監理や標本資料の保管、博物館の定期刊行誌に寄稿するなど、博物館との連携協力を努めた。

イ 海獣展示

展示については、イルカ・アシカオーシャンライブ出演個体のレベルアップを図るとともに、継続している演技指導の成果を活かし季節毎に内容を変え、展示の充実及び様々な飼育動物の話題をプレスリリースし誘客促進に努めた。

また、ショープールと観客席との間に設置しているアシカ用ステージを活用し、アシカを間近にみるパフォーマンスを増やした。繁忙期には、オーシャンライブの回数を増やし対応した。

繁殖事業については、カリフォルニアアシカ1個体、フンボルトペンギン3個体、エトピリカ2個体が順調に成長している。

調査研究については、茨城県沿岸にストランディング（漂着）した生物の調査、研究や保護を関係団体と協力して実施した。

(ア) 展示の充実

イルカ・アシカオーシャンライブは、お客様に「水しぶき」がかかる迫力あるイルカのジャンプや、カリフォルニアアシカと複数頭のイルカを組み合わせたコミカルな演技を披露する内容を基本として実施した。

オーシャンライブの内容は、夏期特別展「恐竜のいた時代」やハロウィン・クリスマスなど季節毎に実施するイベントとタイアップし、トレーナーや各生物個体の組み合わせに変化を付け、いつ見ても新鮮なショープログラムを提供した。また、トレーナーのスキルアップのため、外部講師による演技指導を継続して実施した。

ペンギンについては、屋外オーシャンゾーンのペンギン水槽～カリフォルニアアシカ

水槽前通路で「ペンギンのお散歩」を昨年に引き続き 11 月 1 日から 5 月 6 日まで新たな障害物を設置し、内容の充実を図り実施した。

カピバラについては、昨年に引き続き冬期に「カピバラ銭湯」を 2 月末日まで公開した。

カリフォルニアアシカについては、お客様がアシカを個体識別できるようにするため屋外プールへ「アシカの仲間たち」と称した写真パネルを設置した。

(イ) 生物繁殖事業の推進

鯨類は、オキゴンドウ「ハナ」が 4 月 25 日に出産したが、残念ながら仔獣は 5 日後（4 月 30 日）に死亡した。（体長 167cm, 体重 42.5kg, 雄）

エトピリカについては、4 個の産卵が確認され、うち 4 卵が孵化し 2 個体が順調に成長している。

フンボルトペンギンについては、4 卵が孵化し 3 個体が順調に成長している。

(ウ) 調査・研究活動の推進

ストランディングについては、鯨類 8 件・オットセイ 2 件、計 10 回の調査を実施し、各種データの収集に努めた。

(エ) 展示解説等

エトピリカ・ゴマフアザラシ・ラッコ・フンボルトペンギン・カリフォルニアアシカ・カピバラの 6 種については、「お食事タイム」の給餌解説プログラムのなかで、飼育員による各生物の特徴や生態解説を実施した。

(3) 教育普及事業

生き物や環境などについて、誰もが気軽に楽しみながら学ぶことができる活動を展開するため、展示物及び設備や人材の活用を図り、館内外で解説・レクチャー・自然教室などの活動を実施した。さらに、新たな事業展開を検討するため「水族館探検ツアー検討会」を開催した。

また、ホームページや機関誌を通して水族館に関連した各種情報の提供に努めるとともに、学校等からの要請により、自然観察会や講演会等への講師派遣の他、移動教室を開催した。同様に、教育機関からの実習、職場体験学習等、各種団体等の研修の受入れを行うとともに、生涯学習施設としてボランティア活動支援を行った。

ア 発見体験学習

生き物や自然環境, 水族館に対する理解を促すため「自然体験塾」や会員制教室「アクアパル」, 「さかなの絵コンクール」等の事業を実施した。

(ア) 自然体験塾 <23 事業 / 定員 772 名 / 応募総数 5,854 名 / 参加総数 799 名>

実施日	内 容	対 象	定 員	応募者	参加者
4/18	イルカのふしぎ	制限なし	10 名	47 名	19 名
9/12	イルカトレーナー入門	小学生	10 名	232 名	15 名
1/24	イルカトレーナー入門	小学生	10 名	191 名	11 名
4/25	サメ探検隊	制限なし	15 名	37 名	18 名
5/9	磯の生き物大探検 ①	制限なし	20 名	73 名	29 名
5/17	磯の生き物大探検 ②	制限なし	20 名	113 名	30 名

5/23	バッコ釣りにチャレンジ	制限なし	30名	103名	29名
5/30～31 7/11～12 9/5～6 10/3～4 11/7～8 3/12～13	水族館ナイトキャンプ (6回実施) 夜の水族館と展示生物の生態観察と館内ナイトキャンプ。1泊2日で実施。	制限なし	270名 (各回45名)	2,515名	284名
6/6	カニ探検隊	制限なし	30名	112名	19名
6/13	船から探る大洗の海 (午前・午後各1回)	小中学生と保護者	48名 (各24名)	142名	47名
6/27	那珂川中流大探検	制限なし	10名	66名	17名
7/4	地曳き網で生き物大探検	制限なし	30名	469名	45名
7/29	缶詰づくりにチャレンジ	制限なし	20名	63名	15名
8/8	標本づくりにチャレンジ	制限なし	15名	157名	17名
8/29	生き物飼育体験(海獣編)	制限なし	10名	240名	16名
12/19	生き物飼育体験(魚類編)	制限なし	20名	114名	22名
9/26	ペンギンの卵でアート	制限なし	10名	87名	8名
11/14 3/5	カムバックサーモン (2回シリーズ)	制限なし 2回参加	30名	72名	35名
11/28	つくろう! ところてん!	制限なし	15名	48名	12名
1/30	「かまぼこ」づくりにチャレンジ	小中学生と保護者	25名	70名	21名
2/6	クラゲのふしぎ	制限なし	14名	144名	16名
2/13	涸沼の生き物わくわく大探検	制限なし	20名	110名	21名
3/19	ホエールウォッチング	制限なし	30名	468名	荒天中止

(イ) 大人向け「マスタースクール」新規事業

<4事業 / 定員60 / 名応募総数181名 / 参加総数53名>

実施日	内 容	対 象	定 員	応募者	参加者
7/26	魚類飼育体験	中学生以上	15名	10名	10名
8/23	サメのからだの不思議	中学生以上	15名	26名	14名
10/18	海獣飼育体験	中学生以上	15名	37名	14名
2/21	イルカトレーナー体験	中学生以上	15名	108名	15名

(ウ) 会員制教室/アクアパル

<3事業 / 延べ41名>

実施月	名 称	対 象 者
5月	水族館ナイトキャンプ 夜の水族館と展示生物の生態観察と館内泊。5月に1回, 1泊2日で実施。	会員家族 15(15)名
10月	シラス漁にチャレンジ 漁船に乗船し, シラス漁体験と混獲生物の観察。10月に1回実施。	会員家族 13(13)名



2月	真珠でアクセサリーづくり&ところてんづくり	アコヤガイから真珠を取り出し、オリジナルのアクセサリー作りとところてんづくりのレクチャー。2月に1回実施。	会員家族 13(13)名
----	-----------------------	---	-----------------

(エ) 参加型事業

<2事業/延べ 414作品>

実施月	名 称	対 象 者	
10・11月	さかなの絵コンクール (事前に館内写生会開催)	展示生物を題材に絵画の制作機会を提供し、提出作品の作品展を開催。写生会を10～11月に計4日間開催。館内展示と表彰式を開催。	小学生 248名 (入賞12人)
通年	絵てがみ展	季節行事や動植物、自然をテーマにした作品展の開催。毎月の優秀作品を選考して館内に展示。通年。	制限なし 応募 166点

イ レクチャー及び展示解説

展示生物や自然・環境に対する理解を深めてもらうために、入館者を対象に展示生物の生態等に関する解説サービスとして各種ショープログラムを実施した。

名 称	内 容
なるほど魚っちんぐ	お魚発見教室のレクチャールームにおける生物の特徴を解説 実験・観察等 新規に作成したテーマ解説を含め、ランダムに実施。 通年4回/日実施。 <参加者数 27,647名>
アクアウォッチング	出会いの海の大水槽におけるダイバーが映し出す水中映像を通して、生物の特徴や生態の紹介と質問タイム提供。季節毎に特別バージョンを実施。 通年4回/日実施。 <参加者数 124,810名>
お食事タイム	展示生物の給餌の様子を公開しながら、生物の特徴や生態の紹介と質問タイム提供。 対象生物ごとの実施回数、参加者数は以下のとおり。 エトピリカ： 2回/日 <参加者数 21,413名> ゴマフアザラシ：2回/日 <参加者数 20,884名> ラッコ：3回/日 <参加者数 41,304名> フンボルトペンギン：3回/日 <参加者数 85,300名> カリフォルニアアシカ：1回/日 <参加者数 17,753名> カピバラ：1回/日 <参加者数 19,276名>
水族館探検ツアー	普段見ることができない水族館の裏側を案内、解説。 3回/日実施。 <参加者数 13,938名>

<p>&lt;探検ツアー検討会による新規展示解説&gt;</p> <p>① バックヤード ウォーク</p> <p>② じっくりイルカ コース</p>	<p>① 6階キーパーデッキを使用した「バックヤード ウォーク」を年始の3日間実施。 &lt;延参加者数 5,017名&gt;</p> <p>* 次年度繁忙期限定期間でバックヤードウォークを探検ツアーに替えて新規事業として実施する事とした。</p> <p>② 閑散期対策の一環として2月平日第3回目限定として海獣展示課専門コースとして「じっくりイルカコース」を開催。</p> <p>&lt;前年度比較 296名 ⇒ 458名&gt;</p>
--	--

#### ウ コンピューター情報運用管理

館内の情報端末や館内外へ向けたホームページ上において、主に水槽展示生物トピックス情報や環境保全、水族館の機能や役割等に関して情報発信を行った。ホームページは利便性向上のため、トップページのバナーを整理し、随時新たな情報の更新に努めた。また、ホームページのアクセス解析により閲覧者の動向分析やPR効果を評価し、さらに有効な広報媒体作りを行った。ホームページへの平成27年度アクセス件数は、前年度を下回り1,686,973件（昨年度1,815,119件）1日平均4,609件（昨年度4,973件）であったが、前年度は、5月にシロワニが他種のサメを咬むと言う事象が起き、その月だけで416,946件のアクセスになったことが要因と考えられる。

また、日常のコンピュータシステム管理を行い、システム端末等において散発的に発生した動作不良、部品交換等の不具合解消に努めた。

#### エ ボランティア活動支援

生涯学習の一環として、ボランティア活動の支援を行った。毎月1回役員会を開催し、要望の集約・活動課題、研修計画等の検討・整理をすすめ随時募集にて登録した。

活動実績 <新規加入は7名。平成28年3月31日現在の登録者は85名>

期 日	内 容	参加人数
6月21日	第14回マンボラクラブ総会を開催し、感謝状授与、活動実績報告及び活動計画、新役員選出と外部講師による「マナー研修」、内部講師による講話を実施。	41名
10月15日, 18日	全体研修を「なかがわ水遊園」で実施。	40名
11月21日 ～23日	マンボラクラブ活動発表会「マンボラフェスタ2015」を開催。	延べ40名
年度内	自然体験塾「水族館ナイトキャンプ」ほか 計13回のプログラムに支援参加。	延べ19名
年度内	入館者を対象に5階バックヤードにおいて、ミニ探検ツアーを計87回実施。	参加者 計664名
◎ボランティア役員会議12回実施・年間活動者数 延べ1,921名/9,624時間		

オ 機関誌「Sea遊」の発行 <発行部数 各号 8,000 部>

水生生物等への理解促進を支援するとともに、水族館のイメージアップ、広報を図るため、展示生物の興味深い生態やトピックス等様々な情報を紹介する機関誌を年2回（第28・29号）発行、動物園水族館を始め栃木県及び県内教育機関等へ配付した。また、イバラキ ebooks に掲載し、当館ホームページにバナーを表示した。

カ 企画展

常設展では表現できないテーマを取り上げて、生物や自然環境についての理解を促進するため、企画展を実施した。また、平成29年度企画展テーマの検討を行った。

名 称	内 容	開催期間
第23回企画展 「ふらふら ぷらぷら プランクトン～いのち 溢れる水の世界～」	プランクトンは小型で一般にはなじみの薄い印象にあるが、生物の生活史上では非常に重要な存在である。そこで、プランクトンの基本的な情報を分かりやすく体験的要素を取り入れて紹介し、生命の素晴らしさや形の不思議さを感じていただく。また、付帯事業を2度実施。	平成27年 1月17日～ 5月10日
第24回企画展 「つながるいのち～潜 入！子育ての世界～」	「つなげ命のバトン」をテーマに、海の動物たちの出会い、交尾、子育てについて、飛び出す絵本風の展示で様々な「子育て」を分かりやすく解説展示及び付帯事業を実施する。	平成28年 1月16日～ 5月8日

キ 深海シアター・海の生き物科学館及びお魚発見教室展示機器等の運用管理

各アイテムの展示機能を確保するため、随時、生物の補充や散発的に発生した動作不良、部品交換等の各種不具合の迅速な解消に努めた。その他、将来の展示物更新のために資料を収集した。

ク 自然教室等への講師派遣

教育機関等の要請に応じ、水生生物や環境等をテーマとして各種館外活動を行った。

- ・ 磯観察会では主に熊谷市内小学校の30校が、大洗の海に棲息するヒトデやウニなどの生物に触れ観察を実施した。
- ・ 県内中学校から講師派遣依頼を受けて総合的な学習の時間で計画された「職業人の話を聞く会」において進路選択につながる講演を実施した。
- ・ 県内幼稚園・小学校をはじめ、県立こども病院入院中の児童を対象に「実際に海の生物に触れる体験」となる移動教室を実施した。

<延べ61団体 参加者総数 4,768名>

名 称	対 象	内 容	参加者数
自然観察会 ・講演会 ・授業等	熊谷市磯観察会、 那珂市立第三中 学校ほか30団体	学校主催の磯観察会における生物の観察、採集方法や生物の特徴等解説。学校授業等への参画・支援。	2,178名
移動教室等	茨城県立こども 病院、ほか31団体	水族館や生物に興味を持ってもらうため、無脊椎動物や剥製へのタッチングを実施。	2,590名

ケ 研修会等の受入れ

教育機関や団体からの要請に応じて、水生生物や飼育設備等をテーマとして各種館内活動を行った。

＜延べ89団体 参加者総数 3,556名＞

名称	対象	内容	参加者数
バックヤード見学	檜葉町立檜葉中学校ほか74団体	大型水槽裏側を中心とした飼育設備の概要説明と飼育解説。	3,056名
館内レクチャー・講話等	茨城大学附属小学校, 茨城高等学校ほか3団体	総合学習等, 生き物や飼育に関する講話やインタビューに対応。	92名
夜の水族館	石岡市立恋瀬小学校ほか12団体	照明を消した館内で, 昼間と異なる生物の生態観察の場を提供。	408名

コ 実習生等の受入れ

博物館相当施設として社会教育機能の役割を果たすため、実習生等を受け入れた。

＜延べ60件 参加者総数 120名＞

名称	対象	内容	参加者数
学芸員・飼育実習	東京海洋大学, ほか19件	大学・専門学校の単位取得を目的とした実習生の受入れ。	20名
職場体験学習	北茨城市立磯原中学校, ほか25件	中学生の将来の職業選択や勤労の意義を学ぶ場としての機会を提供。	83名
インターシップ	県立那珂湊高等学校, ほか12件	高校生・大学生の就業意識の向上や新たな学習意欲を喚起するための機会を提供。	16名
教員企業派遣研修	県立水戸商業高等学校	商業高校の教員による企業研修	1名

(4) 交流・連携事業（誘客促進）

上半期の課題を、開館時に次ぐ入場者数であった前年度同様の「夏季入場者の確保」とし、夏休み前の営業活動を積極的に実施したが、夏季期間のサメ騒動による海水浴場遊泳禁止や9月の関東・東北豪雨による鬼怒川堤防決壊災害などの要因により、一時前年度比約4%の入場者減となった。その後、大型連休であるシルバーウィークを契機に盛り返すことができ、結果、入場料収入とともに入場者数も前年度を上回ることができた。

主に、ショープログラムの中で最も人気が高い「イルカとアシカのオーシャンライブパフォーマンス」と、親子に人気のある恐竜をテーマに開催した夏休み特別企画「恐竜のいた時代」の周知広報を行った。特に、アメリカカブトガニや恐竜化石タッチング、水族館入口前の巨大恐竜ロボットを特別企画の目玉展示として、6月初めから館内外告知を始め、県内外の市町村教育委員会の協力を得るなど様々な機会を生かして情報配信に努めた。

そのほか、大型集客施設での移動水族館及び観光キャンペーン、重点地域における観光業

者訪問の実施や、道の駅や文化施設等及び県内外市町村教育委員会を通じ、児童家庭などへチラシ及び割引券等配布を実施した。また、主要新聞社、地方テレビ、SNSを活用した情報発信とマスコミを活用した取材協力による無料広告、さらに沿線の人口増が著しいつくばエクスプレス車両及び主要駅へのポスター掲示などの広報活動を推進した。

連携事業では、茨城・栃木・群馬・福島4県の動物園水族館7園館「ファイト7」による連携キャンペーンや「国営ひたち海浜公園との事業“花海廊”」等を実施し、広く地域連携による誘客促進も併せて行なった。

また、館内においては、GWや七夕・年末年始等、時節毎のイベントを実施するとともに、特に周年祭においては、アーティストがデザインした「勇者マンボウ」をテーマにイベントを展開し、期間を通して勇者マンボウの成長物語を描いたスタンプラリーを実施したほか、マンボウへの給餌体験やアーティストによる歌と絵を組み合わせたコンサートを開催し、癒しと楽しい雰囲気演出することができた。

#### ア 広報実績

テレビ収録や新聞等取材に積極的に対応し魅力ある水族館を紹介した。

また、女性向けの新規媒体として、京浜東北線などへの女性専用車両トレインチャンネルや東京ガールズコレクション冊子への広告掲載、OLに人気のチバテレビ番組『白黒アンジャッシュ』の招聘などを実現することができ、旅行先決定に際して鍵を握る女性への重点的広報に努めた。

広報媒体等	有料広報	無料広報	計
新聞掲載	74件	181件	255件
タウン誌	17件	40件	57件
情報誌	34件	106件	140件
広報誌	16件	9件	25件
テレビ	38件	95件	133件
ラジオ	2件	3件	5件
Web	13件	12件	25件
その他	5件	0件	5件
合計	199件	446件	645件

#### イ 記念式典事業

開館以来の節目となる式典開催と関連催事を実施した。

式典名	開催日
開館入場者1,500万人達成セレモニー	5月14日（木） 4,803日目
年間入場者100万人達成セレモニー	1月31日（日） 306日目

#### ウ アンケート調査の実施

(ア) 毎月第4日曜日車両調査、特定日調査（GW、お盆）

(イ) 毎月第4日曜日入館者調査

エ 催事等

(ア) 催事実績

期 間	催 事 名	期間内入場者
2/28(土)～4/ 5(日)	開館13周年記念イベント 「シャークアドベンチャー」	121,674人
5/ 2(土)～5/ 6(水)	GWイベント 「ちびっこ天国2015」	59,915人
6/ 6(土)～7/ 7(火)	七夕イベント	70,427人
6/ 1(月)～6/30(火)	第40回動物愛護標語募集	81,932人 応募作品数 54通
8/11(火)	サマーナイト	10,346人
募集期間6/1(月)～8/31(月) 投票期間9/6(日)～9/30(水) 表彰式 10/25日(日)	アクア・フォトコンテスト 2015	406,239人 応募作品数 141点
10/1(木)～10/31(土)	「ハロウィンワールド 2015」	80,744人
11/1(日)～11/20(金)	年間パスポート所持者限定イベント2015	53,475人 イベント参加者3,519人
11/21(土)～12/25(金)	「アクアワールドクリスマス2015」	60,790人
漢字募集期間 11/14(土)～12/13(日) 発表日 12/27(日)12時ライブ	アシカによる「今年の漢字二文字」	61,785人
12/26(土)～1/31(日)	「アクアワールド 行く年来る年」	92,992人
1/23(土)～2/14(日)	バレンタインイベント 「ラブラブアクアワールド2016」	44,458人
2/27(土)～3/31(木) (最終日4/3(日))	開館14周年記念イベント 「勇者マンボウ～大洗に集いし勇者たち～」	110,089人 (3/31まで)
計	13事業	1,254,866人

(イ) 特別展示

実 施 日	催 事 名	期間内入場者
7/18(土)～9/23(水)	夏休み特別企画 「恐竜のいた時代」	期間内入場者 365,801人

(ウ) 移動水族館実績

実 施 日	催事名・場所
5/16(土)～17(日)	花海廊事業連携 (国営ひたち海浜公園内)
5/23(土)～5/31(日)	イオンモール北戸田
6/20(土)～6/28(日)	フクダヤインターパーク 宇都宮市
9/12(土)～13(日)	いばらきの魚わくわく祭り (県主催イベント)

10/17(土)～18(日)	花海廊事業連携（国営ひたち海浜公園内）
10/24(土)～25(日)	銚田うまかっぺフェスタ（銚田市主催事業）
1/17(日)	龍ヶ崎市文化会館（龍ヶ崎市主催事業）
3/5(土)～6(日)	イオンモール与野
計 8事業	

(エ) キャンペーン及び誘客営業の活動実績

実施日等	キャンペーン名
4/26(日)	アリオ上尾
6/6(土)・14(日)	ケーズスタジアム（ホーリーホック主催ゲーム）
6/28(日)	ファイトセブン連携キャンペーン（宇都宮動物園）
7/3(金)	茨城県人会連合会懇親会
10/24(土)～25(日)	茨城を食べよう収穫祭（砂沼サンビーチ）
11/1(日)	大洗公園わくわくフェスティバル（県造園業協同組合）
11/14(土)	あみプレミアム/アウトレット（県観光物産協会主催）
1/7(木)	明日の茨城づくり新春のつどい
2/5(金)	茨城県人会賀詞交換会
2/27(土)	宇都宮ベルモール（県観光物産協会主催）
3/12(土)	スマーク伊勢崎（県観光物産協会主催）
3/12(土)	ファイト7連携キャンペーン（アクアマリンふくしま）
通年	県内外集客施設及び観光施設リーフレット等配付 （県内外の道の駅・大型図書館等の集客施設に割引券付リーフレット配布。）
通年	観光エージェント訪問 （期間限定商品等の県内外への営業訪問の実施。）
通年	チラシ・ポスター送付及び各県民の日割引の周知活動 （茨城県、栃木県内を中心に埼玉県、千葉県、群馬県及び福島県へ情報提供。） （各県民の日の割引について、集客施設へのポスター掲出や地元新聞等へ記事掲載。）
通年	県内外の小学校への営業活動 （茨城県、栃木県、千葉県、埼玉県の各市町村の教育委員会を直接訪問するなど、小学校等へチラシや割引券を配布。）
7月上旬	小学校へのオリジナル冊子配布 （4月から6月までに来館した小学校へ配布。）
計 17事業	

## (5) 管理運営部門

### ア 管理運営

施設の適正な管理に努めるとともに、入場者に対するホスピタリティの精神を養い接遇の向上を目的として、全職員を対象とした「顧客満足に関する研修」を実施して資質向上を図った。

入場者の安全確保及び迅速な避難誘導を行えるよう、通常実施している消防訓練の他に地震による津波を想定した避難訓練や、AED及び救命救急講習を実施して危機管理対応力の向上に努めた。

また、原発風評被害払拭のため、継続して毎日放射線量を測定のうち、その結果をホームページにて公表することにより安全性のアピールに努めた。

ゴールデンウィーク期間やお盆期間、シルバーウィーク期間の繁忙期における駐車場混雑緩和対策としては、大洗港第4埠頭を臨時駐車場として借用し、無料のシャトルバス運行を行った。さらに、お盆期間ピーク時の渋滞緩和策として、隣接する大洗公園駐車場の一部借用期間を7月18日から8月23日までとし入場者へのサービス向上に努めた。

### イ テナント関連事業

マーケットプレイス連絡会議の事業としては、水族館とタイアップして新聞広告を掲載するなど積極的な広報により周知度アップを図りながら、全店舗が協力して毎月第一土曜日をONEコイン(500円)イベントとして、限定メニューを販売PRして利用促進に努めた。

また、季節の飾り付けなどで賑わいのある演出を行い、地元産品を用いた商品開発による、サービス向上と地域の活性化に寄与した。

### ウ 施設整備

中長期修繕計画を基本に各種修繕工事を実施したほか、強風や台風といった自然災害等の突発的な修繕に対応するなど安全対策に努めたほか、一般駐車場からのスロープ舗装工事や身障者出入口扉の改修など延べ223件(昨年288件工事)実施し施設環境の整備をとおしてサービスの向上に努めた。また、省エネルギー委員会を毎月開催し、職員の省エネ意識の改善に努めた。更に循環ポンプ更新に伴い、高効率モーターを導入し節電、省エネに努めた。経済の動向により原油価格は下がり、重油価格が大幅に下がったため、平成26年度に比べ重油の使用量を増やすことにより、買電量を減らし、電気料金及び重油代の大幅な削減が図れた。

また、機械設備面の大型工事では、平成26年度に引き続き、水槽等冷却用ブラインチラー2台を更新、出会いの海、サメ、マンボウ、イルカといった大型水槽の循環ポンプ更新、魚類系逆洗ポンプユニット更新など飼育生物の安定した飼育環境を整えた。中央監視室用の非常用電源設備を更新し、非常時、館内設備の状況を監視できるように信頼性を向上させた。その他、開閉に支障をきたしているドアの改修や業務冷凍・冷蔵機更新など、塩害と経年劣化からくる修繕、更新を行い、環境整備に努めた。



## 5 収益事業2（水族館売店事業）

### （1）物販部門

スーベニアショップ「モラモラ」においては、水族館や海をテーマにした関連グッズ約2,000種のバラエティに富んだ品揃えをすることにより、お客様が楽しみながら買い物を出来るような店舗作りに努めた。知名度の高い老舗業者とタイアップしたオリジナル商品の導入や、夏の特別展示「恐竜のいた時代」と連動した商品、また季節やイベントに合わせた商品を取り揃え、棚の入れ替えなどを行うことにより、リピーターにもマンネリ化を感じさせないようなショップ作りを心がけた。その結果、昨年実績を上回る売り上げを立てることが出来た。

ミュージアムショップ「ガレオス」においては、名前の由来である「サメ」のグッズを中心に、大人をターゲットにした商品の充実を図り、売り上げ増に努めた。一方では子供に向けた低価格のセット商品を店頭に並べ、閑散期の売り上げに貢献した。

### （2）飲食部門

コーヒーショップ「マーメイドギャラリー」においては、ソフトクリームとフライドポテトが売り上げ上位ランクを占めたほか、当店オリジナルカレーは売り上げを伸ばして4位、同じくオリジナル商品のサメ肉を使用したシャークナゲットは5位にランクインするなど人気を博し、大きく売上増に貢献した。

他の商品では、季節に応じたメニューや、企画展とのタイアップ商品を展開し、食でも水族館を楽しめる店作り、商品作りを念頭に置き、収入の確保に努めた。さらに閑散期対策としては、マンボウケーキやハートパンケーキ等をハンドメイドで提供した。

### ア 売上実績

（単位：円）

物販部門		飲食部門	
区 分	売上金額	区 分	売上金額
モラモラ・ガレオス	591,151,961	マーメイドギャラリー	80,397,730
自動販売機	8,686,165		
合 計	599,838,126	合 計	80,397,730

### イ 利用率

物販部門		飲食部門	
総入場者数 (A)	1,160,719 人	総入場者数 (A)	1,160,719 人
利用件数 (B)	324,904 件	利用件数 (B)	95,648 件
利用率(B) / (A)	28.0%	利用率 (B) / (A)	8.2%

※ 利用件数は、レシート発行数（総入場者のうちレジを利用した人数）